

あゝ風（のんり）



発行責任者
西川 晃二

【校長室より】

人生は旅。あなたは、どのような旅人になりますか。

いろいろな旅がある。歩く旅。快適な乗り物での旅。大学生の私は、お金も持っていなかったせいでもあるが、東京と平戸との往還は専ら鉄路に頼っていた。それも新幹線等という洒落た物ではなく、時間があれば、いや、お金がないので各駅停車の鈍行を乗り継いでいた。高校時代は、他人とうまく協調できず、「世界が見えない」などと、訳の分からぬことを口にする、大人から見れば、至って御しがたい小生意気な小僧であった。だからこそ、鈍行を愛用していたのかもしれない。鈍行の旅では、名もない山村や漁村、山間、谷間のいすこにも生活の息吹を見ることができた。日本の隅々に人が居、生活を営んでいる、ただそれだけで少なからず感動したものである。すこしずつ「世界」が見えてきていたのかもしれない。しかし、徐々に横着になり寝台列車での帰省が定着した。

大人になった今、東京に行くともなれば、まず、飛行機しか考えられない。お金の余裕と、反比例しての時間のなさが飛行機へとつながったのであろう。足下の景色の変化に心躍らされることもある。ミニチュアの電車や車、蟻よりも小さな人の粒。マッチ箱より小さな家々。空高く舞上がった機上の窓外の景色は、砂遊びの山や川以上にちっぽけに見える。その時、私は何を考えているのだろうか。正直何も考えていない。天気晴朗なれば清々しい気持ちに。悪天候下では早く目的地に着くことをひたすら願う。眼下の生活に人の息吹を想像しえない旅人になってしまっていた。かつてはそうではなかった。歩きの小学生時代。自転車の中学生時代。そして、再び歩きの高校時代。電車の大学時代と車の大人。こうして自分の移動手段は人力から離れていった。それと併行するように、私の視界からは、野に咲く花や、小枝に群れる虫の姿が消えていった。「木を見て森を見ず」ということばがある。極小の物に目をとらわれ、大局を見失うことを戒めてのことばであるが、私から言わせれば「森を見て、木を見ず」という大人があまりにも多くなりすぎているように思う。かつて、大宅壮一氏が言った「一億総評論家の時代」は古くなりししたが、今現在も「一億」が「一億三千万」に変わっただけではないか。評論家然として大所高所から物を言う大人が多いことよ。それにいつの間にか私も参加している。道ばたの野花に見惚れたり、麦笛を鳴らしての登下校から遙か隔たった今、窓外の景色を早送り状態で見ていては森しか見えない。森も木も、名も無き虫をも見ることができ人になりたいものである。

「人生は旅である。」「人生の旅人。」というように、人生を旅によく譬える。目的地へひたすら急ぐ旅もあろう、目的地もなくさすらう旅もあろう。人それぞれの人生。それぞれの旅の仕方がある。2学期を迎える今、あなた達がどのような旅を選択するか、それは自由。ただ、自分を見失わず、目的地を見失わず、人の息づかいを感じることができる旅を経験して欲しいとは思います。

昨今、教育界では「いじめ」「体罰」が大きな問題になっています。それは、他者の生き様を軽視する風潮が社会に蔓延しているせいかもしれません。他者を慈しむ気持ち見失わぬようにしたいものです。



2013長崎しおかぜ総文祭

【JRC・ボランティア部門】

インターアクト部 顧問 田代 章子

7月31日から8月2日まで、第37回全国高等学校総合文化祭（JRC・ボランティア部門）が本校と福江文化会館を主会場に実施されました。本部門は、JRC（青少年赤十字）の活動をしている学校、そしてJRCに加盟していなくてもボランティア活動を行っている学校の生徒達が全国から五島市に集まり、「全国の仲間とともに学ぶ」をコンセプトに、島内のフィールドワークや日頃の活動発表を行って学びを深めるというもので、北海道から沖縄まで全国各地から大会関係者約200人が来島しました。

大会初日には、名古屋第二赤十字病院で国際医療救援活動に従事されている関塚美穂様から海外医療救援や現地の様子についてのお話を聞いたり、2日めは島内4地区（崎山、富江、奥浦、三井楽）に出かけ、各地区で活動されている方のお話を伺って、その地区のニーズや課題を発見するとともに、ニーズの発見の仕方を学びました。大会期間中は、福江文化会館において日頃の活動を記録した展示部門も開催され、多くの方々にご来場いただきました。

今大会では、多くの生徒が運営補助員として参加し、またアトラクションにおいては崎山地区の男子生徒によるチャンココの披露など、生徒が主体となって大会を運営することができ、「47年に1度の総文祭」は、心に残る素晴らしいものとなりました。今大会の開催にあたり、御支援、御協力いただきました多くの方々に心よりお礼申し上げます。



インターアクト部 部長 森下 楓 さん

私は、今回の長崎しおかぜ総文祭にあたって沢山のことを感じました。

まず、私達五島に住む人間が「五島」のことについて、よく知らないということを痛感させられました。私はフィールドワークで崎山の「ヘトマト」の文化に触れたのですが、初めて見聞きすることが多かったです。その地域の人しか知らないことが色々あることを知ったので、もっと故郷のことについて知る必要があると感じました。次に、この総文祭が成功したのは、多くの方々の協力があったからだと感じ、感謝の思いでいっぱいになりました。私達だけの力では、総文祭を成功することができなかったと思います。



今大会では、全国のJRC部門の方々と五島の伝統文化について見つめ直し、問題点を見つけ、改善策を考えることで、五島についてより知ることができました。47年に1度、五島が開催地の年に、このような貴重な体験をすることができて本当に良かったです。今後も多くの活動に取り組みたいと思います。

【百人一首かるた部】

2年3組 竹崎 志保 さん

私たちは、選手、そしてスタッフとしてしおかぜ総文祭に参加してきました。3年生の先輩と一緒に出場できる最後の試合だったので、いろいろなことをたくさん吸収できたと思います。スタッフとして参加した部員は、先輩が一生涯懸命に試合へ臨んでいる姿を見て、「自分も先輩のようになりたい」という想いがさらに強くなりました。

また、他県の礼儀、技術面など、自分に足りない部分も見えて学ぶことができたので総文祭で学んだことを練習に生かしていこうと思います。今後とも応援よろしくお願いします。

＜結果＞ 1回戦 長崎2－3奈良
2回戦 長崎5－0広島
3回戦 長崎1－4愛媛（予選リーグ敗退）



「しおかぜ総文祭を観覧して」

2年2組 平田彩乃、2年5組 岩永莉奈、1年3組 青山睦、1年4組 今村佳音

- 文化部の融合では、各部の演出が同時に行われることによって、各部の良い所が引き立ち素晴らしいステージが出来上がっていました。
- 様々な文化を“融合”し、“発祥”していく。また、“平和”を祈り、多様な文化を尊重し“共存”させ、平和な未来を“創造”していきたい！という実行委員の思いが見えて伝わってきました。
- しおかぜ総文祭を見て、「伝える」ことの大切さを学びました。五高祭まであと1週間です。ステージ発表であっても、展示発表であっても、必ず誰かに想いを「伝える」ことができると思います。
- 原爆投下音を流すシーンがありました。世界中にある核兵器を全部落としたり、ずっと落ちる音だけが響

～全国大会報告～



2013未来をつなぐ北部九州インターハイ

【柔道】 3年4組 祝 貴之 君 (8月8日 福岡県福岡市民体育館)

インターハイを終えて、全国のレベルの高さを改めて実感しました。結果は、一回戦負けで、内容も納得のできるものではありませんでした。全国大会に出場する際に必要なものは、今まで自分がやってきたことに自信を持つこと、会場の雰囲気のにまれないこと、支えて下さった方々への感謝の気持ちを持って試合に臨むことだと思います。そして、日頃の練習や生活の中でこれらのことをこつこつと磨いていくことだと思います。これから、まだたくさんの大会がある1, 2年生はこのことを意識して練習を頑張ってください。

インターハイへ向けて支えて下さった方々、応援して下さいました。次は、10月に東京で行われる国体へ向けて練習を頑張っていきたいと思います。みなさん応援よろしくお願いします。

(顧問 引地勝は見た！)

男子個人81kg級に出場した祝貴之君(3年)は、今年3月に開催された全国高校柔道選手権大会ベスト8の実績を持つ、埼玉県の強豪校である埼玉栄高校の園田亮輔選手と対戦しました。祝君は九州大会で第2位の実績を持っており、大学関係者から注目をされておりましたが、試合は、終始組み手争いとなり、若干後手にまわった祝君が指導2の反則を受け、一回戦敗退という残念な結果に終わりました。しかし、今年10月に東京武道館で開催される東京国体に、九州地区予選を勝ち上がった長崎県団体メンバーとして出場することが決定しています。10月の国民体育大会は、インターハイのリベンジの大会として活躍することを期待しています。みなさまの応援をよろしくお願いします。

【自転車競技】 2年1組 出口倫子 さん(7月30日～8月3日 大分県別府市)



女子はトラック競技のみの開催で、私はスクラッチとポイントレースに出場しました。スクラッチでは、3月の全国高校選抜自転車大会で落車して以来のレースだったので、まず無事に完走すること、そして入賞することを目標に走りました。着順は6位でしたが、最後の最後で警告を受け、16位という結果で終わりました。走りとしては、ラスト1周でしっかりもがけていたので満足しています。しかし、勝負の世界であるため、順位は納得いくようなものではありませんでした。ポイントレースでは、鹿町工業高校の監督や選手からアドバイスをいただいてレースに臨みました。公式大会ではもちろん、練習でも経験したことのない種目でとても緊張しました。途中、落車してしまいましたが、再レースをして9位に入りました。入賞には一步届きませんでしたが、次への課題をみつけるいい機会になりました。

インターハイに出場するにあたって、私は多くの方々に支えられてきました。家族や鹿町工業高校の皆さん、五島高校の先生方、クラスみんなには本当に感謝しています。ありがとうございました。来年は、全国大会で入賞し、いろいろな方々にいい結果が報告できるように頑張ります。

全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会

百人一首かるた部 2年3組 入口育美 さん

7月27日、28日に全国高等学校小倉百人一首かるた選手権大会が滋賀県の近江神宮でありました。団体の1回戦は鳥取県の米子南でした。試合中盤から五高に流れが来て、勝利に必要な3勝を一気に決め、5-0で勝つことができました。2回戦は、山口県の下関南高校でした。早い段階で五高が2勝を決めましたが、残り3つは負けてしまいました。すごく悔しかったです。私は、2回戦では、自分の試合で勝敗が決まるというプレッシャーに耐えきれず2枚差で負けました。少しでも長く先輩方との夏を過ごしたかったのですが、私が終わらせてしまいました。この大会に出場して、様々な課題が見つかりました。これからは先輩に頼ることも出来ません。来年、再び近江に行けるよう努力していきます。

普通科スポーツコース第1回体験入学(8月4日)

8月4日(日)に普通科スポーツコースの第1回体験入学を開催し、五島市内中学生71名と島外中学生4名の計75名の中学生の参加がありました。まず始めに校長のあいさつそして教務よりコースの説明を行いました。その後、指定3競技(柔道・剣道・陸上)の実技講習会を行いました。

陸上は、ナインドットスポーツ塾(佐世保)の田端健児氏を講師として、まず講義の中で図形の問題を使って、自分で限界の枠を作らず枠をはみ出して欲しいという話がありました。そしてグラウンドでは速く走るためにどうやって重心を移動させるかということを中心にご指導いただきました。

柔道は、大阪体育大学柔道部監督の村元辰寛先生を講師にお招きして、実技指導を行っていただきました。このような貴重な体験の積み重ねで選手は日々成長していると感じています。

剣道は、長崎県警察名誉師範の馬場武典先生を講師として、日本剣道型を教えていただきました。実際の剣道にも通じることを教えていただきよい経験となりました。

「3年生学習合宿」(7/20～26 in 長崎) 団体戦！

3年生は7月20日から26日まで、6泊7日の日程で学習合宿を実施しました。1日10時間以上の学習を行うことにに対し、最初は「そんなに長い時間学習できるのか」という不安を持った生徒もいたようです。しかし、学校や家庭とは違った環境の中で、みんなで学習を行うことにより、高い集中力を持続することができるようになりました。質問にも積極的に行く姿が見られるようになり、理解を深めることができていました。また、学力をつけることはもちろんのこと、友人の姿を見て、自己の学習方法を見直すきっかけにもなったようです。



今回の合宿は保護者の皆様やホテルの方々など、多くの方のご協力で無事に終了することができました。PTAの方々からは差し入れをいただきました。ありがとうございました。この合宿をひとつの契機とし、さらに受験勉強を充実できるよう、学年全体で頑張っていきたいと思います。

「笑舞」第62回五島高校体育祭

9月1日(日)、五島高校体育祭が開催されます。

今年の体育祭のテーマは「笑舞」。勝った負けたという勝負にこだわるのはもちろんですが、みんなが楽しく、笑って過ごせる体育祭になってほしいという思いでこのテーマに決めました。このテーマをみんなが意識し本番当日も笑顔いっぱいの体育祭にしていきたいと思います。

ここに至るまでには、たくさんの「汗」と「涙」そして「努力」がありました。実行委員は7月上旬から、全体としては8月上旬から準備が始まり、夏休み明けから本格的に活動してきましたが、なかなかまとまらない団があったり、連絡がうまくとれなかったりし、心配しましたが、今では団長を中心に各団とも強い団結力が付いてきたと思います。

さて、あとは本番を待つのみとなりました。仲間、保護者、地域の方々には日々の活動で多大なご迷惑をおかけしたと思います。体育祭に参加する生徒のみなさんは感謝の気持ちを忘れず、本番は全力を尽くしましょう。全員が練習の成果を発揮し、競い合い、そして楽しみ、大きな笑顔が舞うそんな体育祭にしていきたいと思います。

体育祭実行委員長 3年6組 西津大志

五高祭「希望～歩みを止めるな今の自分」

今年度の五高祭は9月7日(土)と8日(日)に開催されます。現在、実行委員35名を中心に『希望(みち)～歩みを止めるな今の自分』というテーマの下、全力で企画をしています。五高生の皆さん、そして来場される多くの皆さんが「希望」を持って生きることができるよう、このテーマと真剣に向き合っています。オープニングセレモニーやエンディングセレモニーでの企画にご期待ください。各文化部、各クラス、有志等様々な団体が多様な表現をします。また、昨年度好評だった「屋外特設ステージ」でのステージパフォーマンスもあります。今年度の五高祭にも、是非ともご期待ください。

なお、五島高校ホームページに「五高祭マスコットキャラクター、ロゴ」「五高祭ポスター」「五高祭プログラム」を掲載しています。是非ともご覧ください。



文責：前川 卓郎

五高祭(9月8日)バザーのお知らせ

○リサイクル品バザー 10:00～13:30
多目的教室2A・2B

○飲料バザー 10:30～13:30
洋の広場

○食物バザー 11:00～13:30
セミナーハウス

平和学習(8月9日)

8月9日に平和学習を行いました。今年は校内放送で女優の吉永小百合さんが朗読した「第二楽章～長崎から～」を聴き、平和の尊さを学習しました。その後、五高平和宣言の他に、この学習をうけて世界平和を祈念する標語を作成しました。ここでいくつか紹介します。

引き継ごう	この経験を	後世に	(3年5組	川口 真輝さん)
かえようよ	つらい涙を	笑顔へと	(3年6組	西津 大志さん)
笑顔がね	あふれる世界に	したいんだ	(3年7組	布袋 朋子さん)
この世から	核兵器消し	ピースしよ	(2年2組	小澤 舞さん)
なりひびく	平和の鐘を	世界まで	(2年5組	山田 勝生さん)
守ります	平和な世の中	絶対に	(1年3組	浦濱 司さん)
幸せとは	いまあなたが	生きている	(1年7組	磯沖 晴花さん)



他にもたくさん良い標語がありました。それらの思いをいつまでも忘れず、そして後世にしっかりと語り継ぐことによって、日本から世界へ「平和を祈るメッセージ」が発信できると思います。